

## 別紙 1

### 「ユースケース 1 . ファンド・SSI・法人基礎情報の共有」検討結果詳細

# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”の現行課題

## －課題の概要－

- 現状、約定照合についてはインフラがあり効率化も進んでいるが、ファンド情報やSSI情報※、法人基礎情報等のマスタ情報の登録・メンテナンスにおいてはカウンターパーティ間でのコミュニケーションや情報共有などの課題がある。

※SSI：ファンドごとの決済条件を事前登録しておくための保振の決済照合システムのデータベース（Standing Settlement Instructionの略）

## ファンド・SSI・法人基礎情報の共有の課題

### 1. カウンターパーティ間のコミュニケーション

ファンド設立時や償還時において、カウンターパーティ間でメールにてコミュニケーションをとりながら約定照合等に必要なマスタ情報を登録する必要がある。

### 2. ファンド・SSI情報のメンテナンス

ファンド運用終了時に、決済照合システムにおけるファンド情報、SSI情報が正しくメンテナンスされず不要な情報が残存し、照合業務における非効率の要因となっている。

### 3. カウンターパーティ・ファンド属性の情報共有

取引開始時のコンプライアンスチェック等において法人やファンドの属性情報の確認が必要になるケースがあるが、情報が一か所に纏まっておらず、個別に確認が必要であり、属性情報を確認する側・される側の双方の業務負荷となっている。

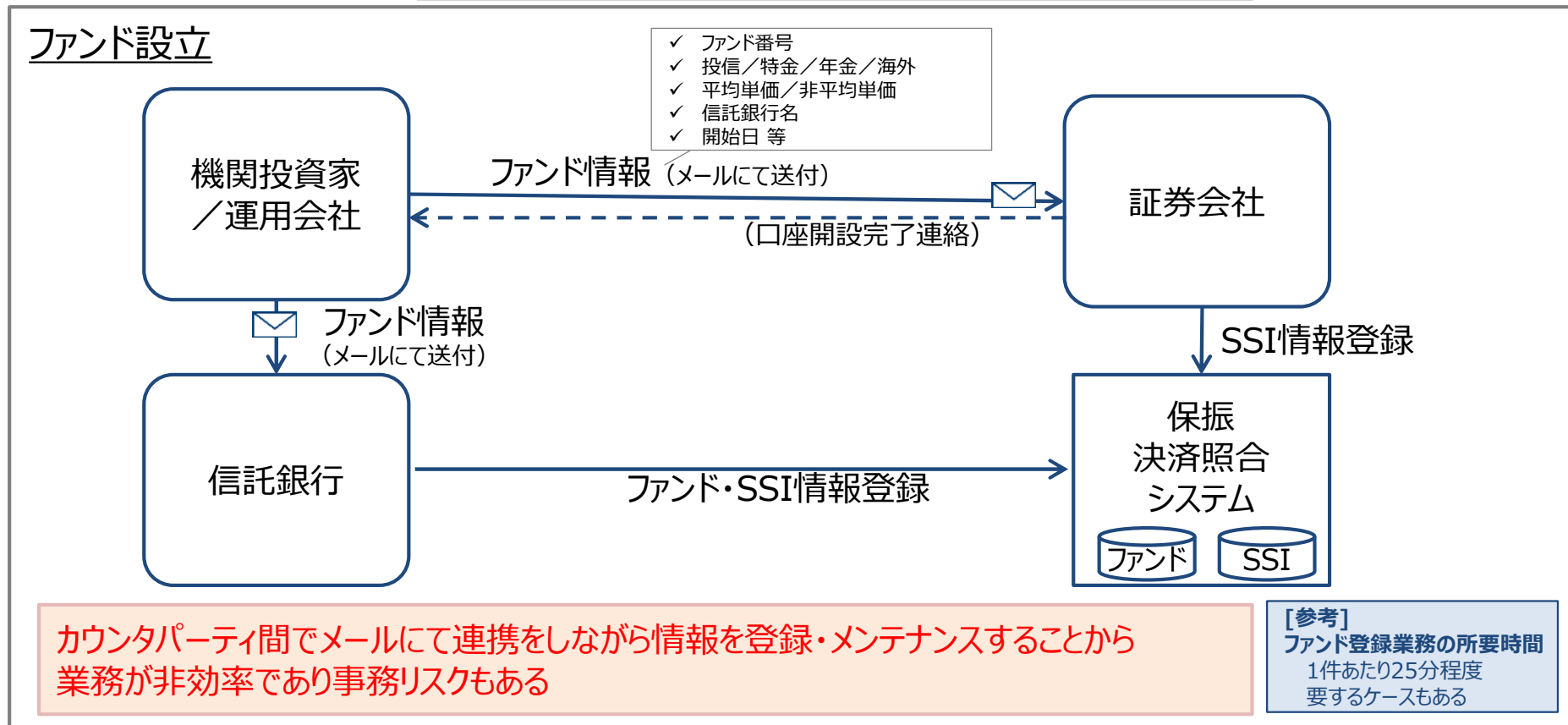
### 4. システム間の情報連携

ファンド情報やSSI情報等のマスタ情報については、自社システムや他の決済照合システムとの連携がないことから、二重でメンテナンスを行う必要がある。

## 課題1 カウンターパーティ間のコミュニケーション

- ファンドの設立時や属性変更時にはカウンターパーティ間で情報連携が必要となっている。現状はメールでのコミュニケーションが多く、非効率であることに加え、見落としや送信先の誤り等の事務リスクがある。

### カウンターパーティ間のコミュニケーションの課題



[参考] 契約型公募投資信託の新設ファンドの本数 (投信協会「契約型公募投資信託の新設ファンドの本数」資料より)

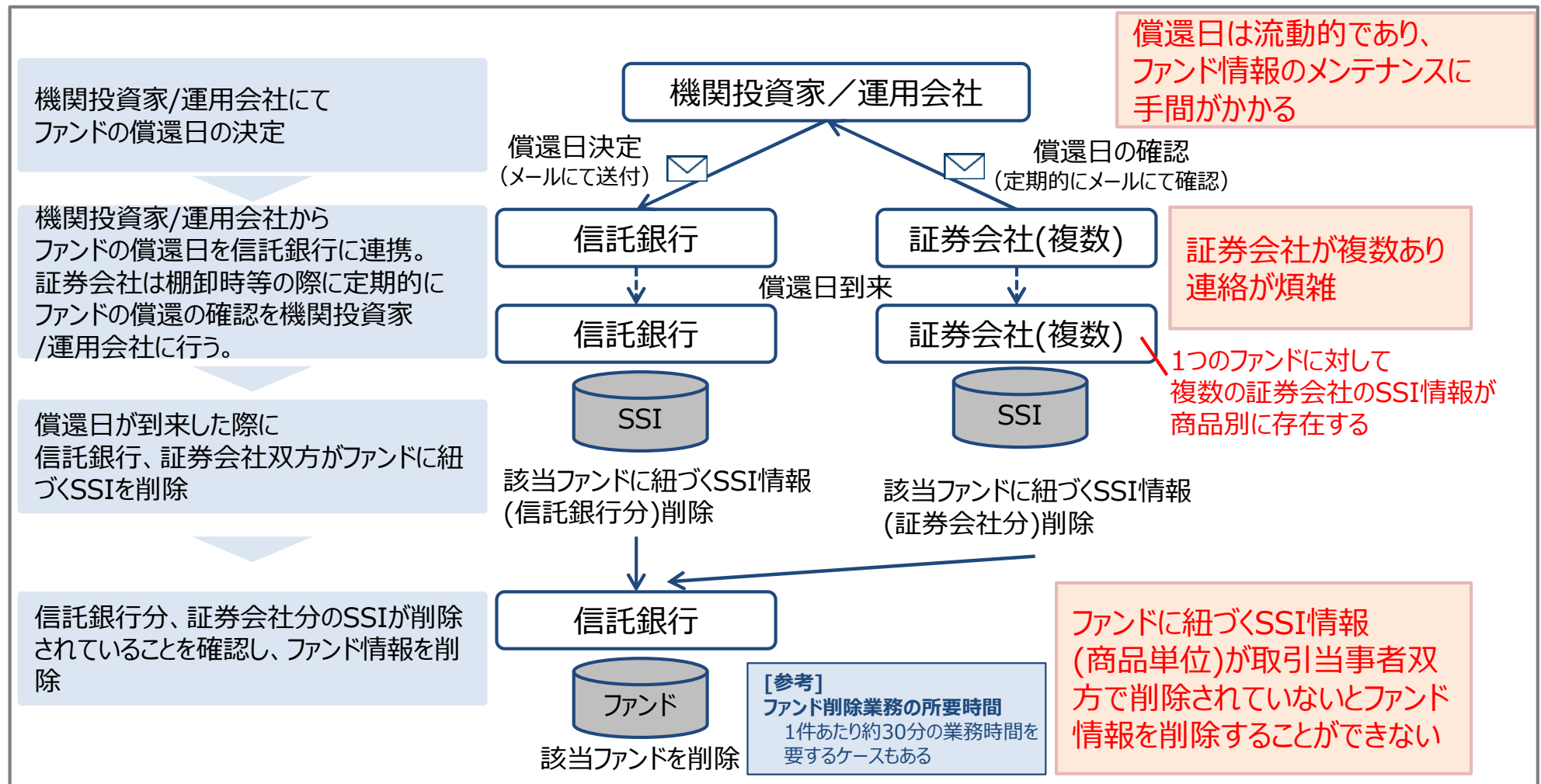
新規設定のファンド数：2017年 523件 2018年 407件 2019年 329件

※ 保振の決済照合システムのファンド登録件数ではない  
※ 契約型公募投資信託ファンドの本数のみであり、それ以外は含んでいない

－課題2 ファンド・SSI情報のメンテナンス－

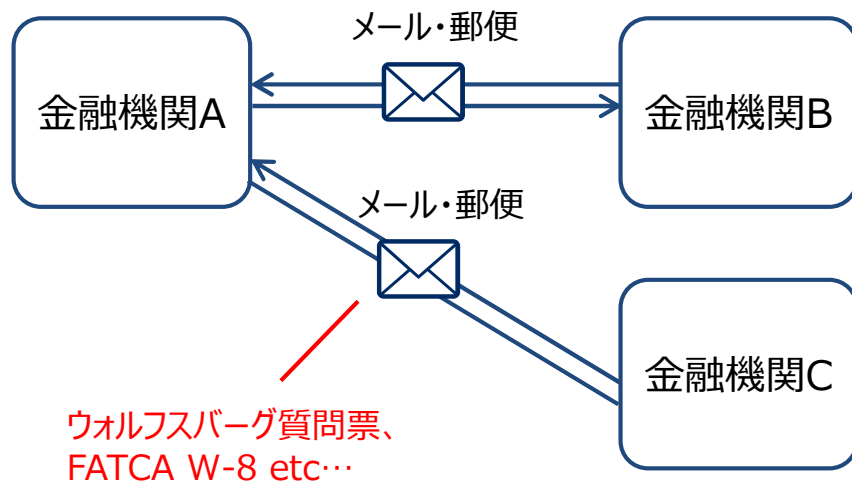
- ファンドの償還日は流動的であるケースが多く、適切に償還日の情報がメンテナンスされないことがある。
- さらに、現行の決済照合システムの特長上、取引当事者双方でSSI情報が削除されていないとファンド情報を削除することができず、運用が終了したファンド情報が残存する原因となり、業務効率の低下の原因となっている。

ファンド償還時のファンド・SSI情報のメンテナンス性の課題



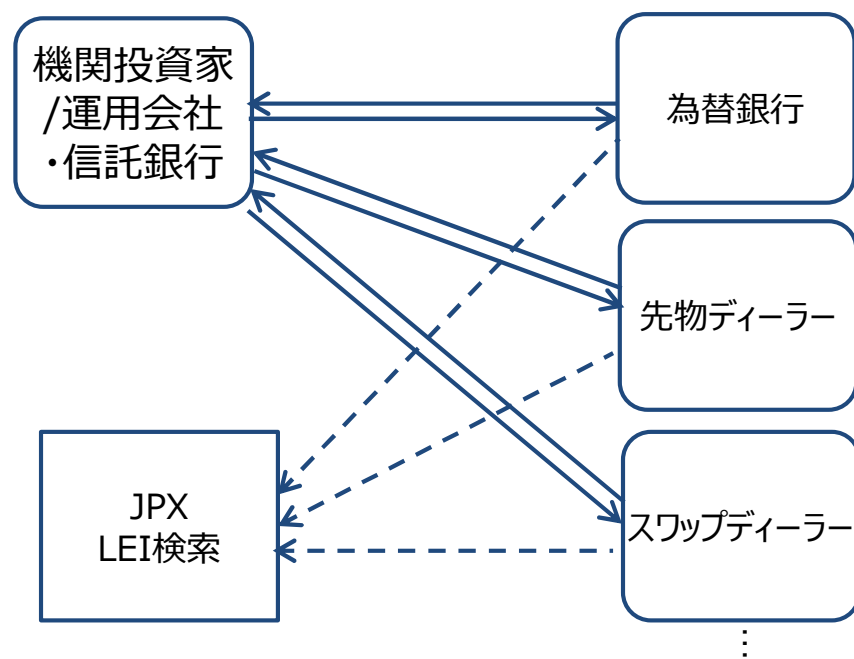
- カウンターパーティの法人基礎情報やファンドの属性情報が一か所に纏まっておらず、個別の確認が必要であり、確認する側・される側の双方の業務負荷となっている。

### 法人基礎情報の照会



取引開始時や定期的なコンプライアンスチェックにおいて、個別にメールや郵便等にて確認

### ファンド属性情報(ファンドLEI等)の照会

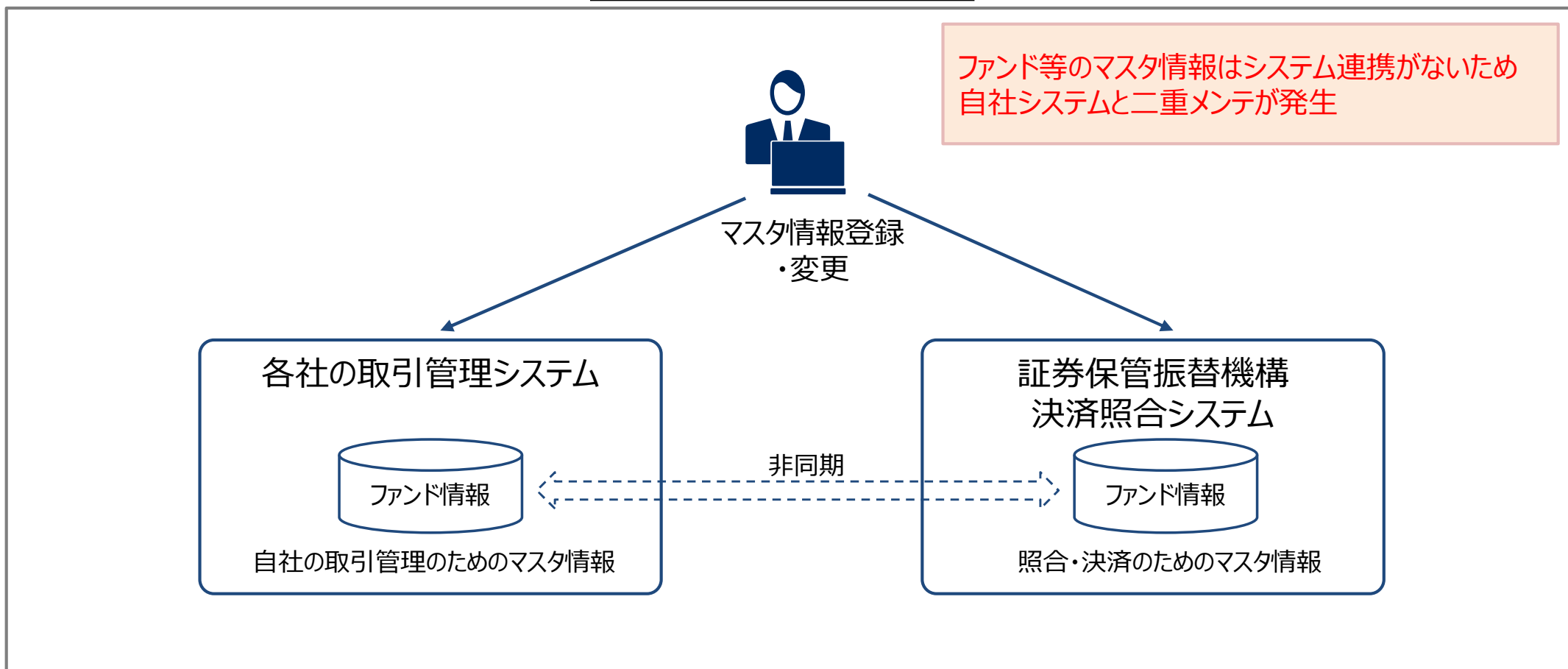


ファンド属性情報がまとまっていないことから  
ファンドLEI等の個別の照会が発生

－課題4 システム間の情報連携－

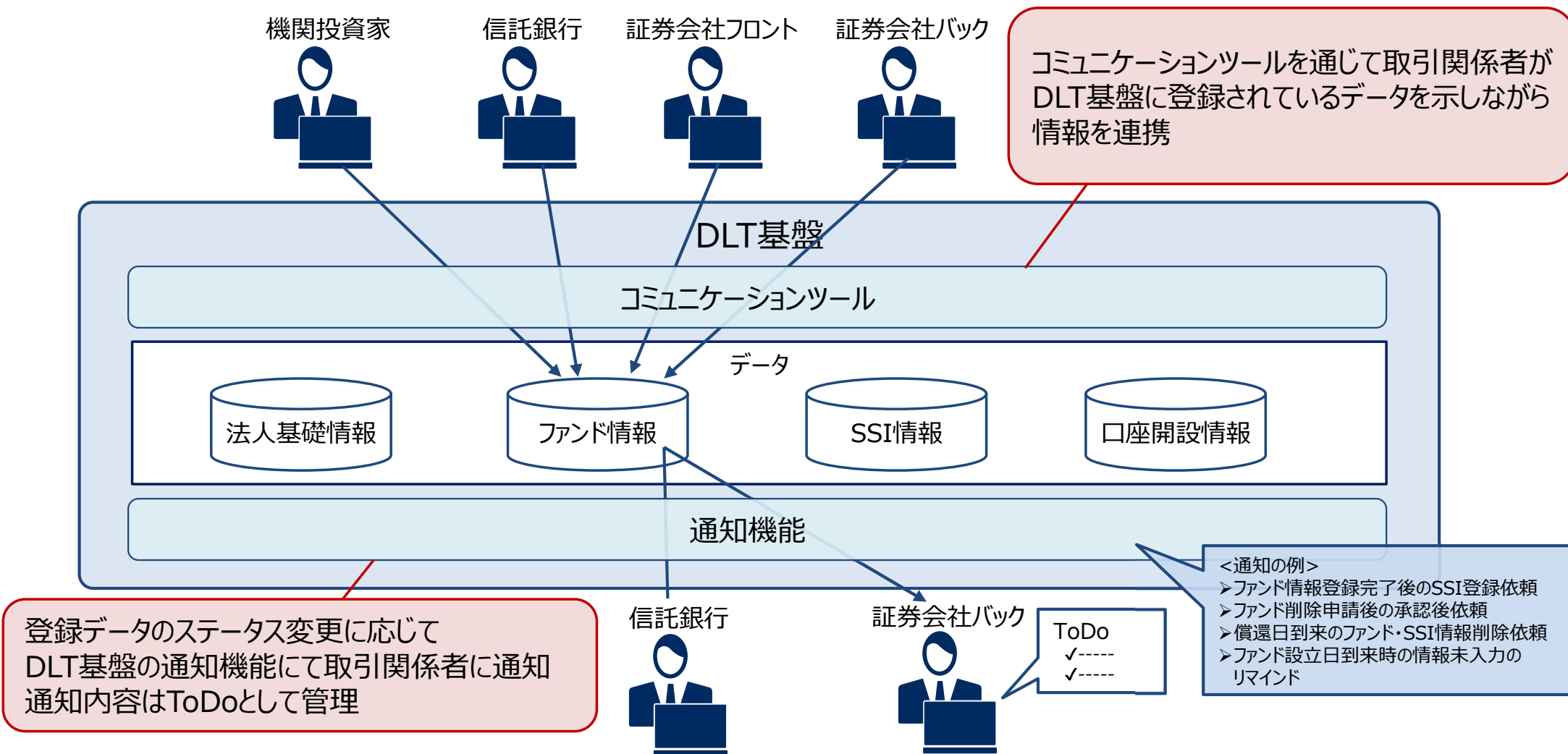
- ポストトレードにおいては各社の取引等を管理するシステムのデータを正として管理されていることが多く、ファンド等のマスタ情報については、決済照合システム等と二重メンテナンスになることがある。
- マスタ情報の初期登録時に加え、属性情報変更時においても、それぞれにメンテナンスが必要となる。

### システム間の連携の課題



## 課題1 カウンターパーティ間のコミュニケーション

- カウンターパーティ間でのコミュニケーションを効率化させるためにDLT基盤にコミュニケーションをとるためのツールとステータス変更時の自動通知を行う。
- コミュニケーションツールの導入により、DLT基盤にて関係者で共有されるデータを示しながらコミュニケーションをとることで、カウンターパーティ間、フロント・ミドル・バック間でのコミュニケーションの効率化が期待できる。

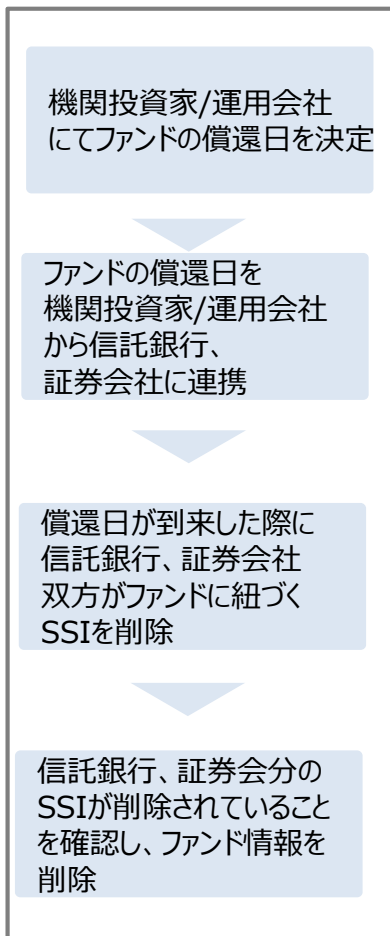


## －課題2 ファンド・SSI情報のメンテナンス－

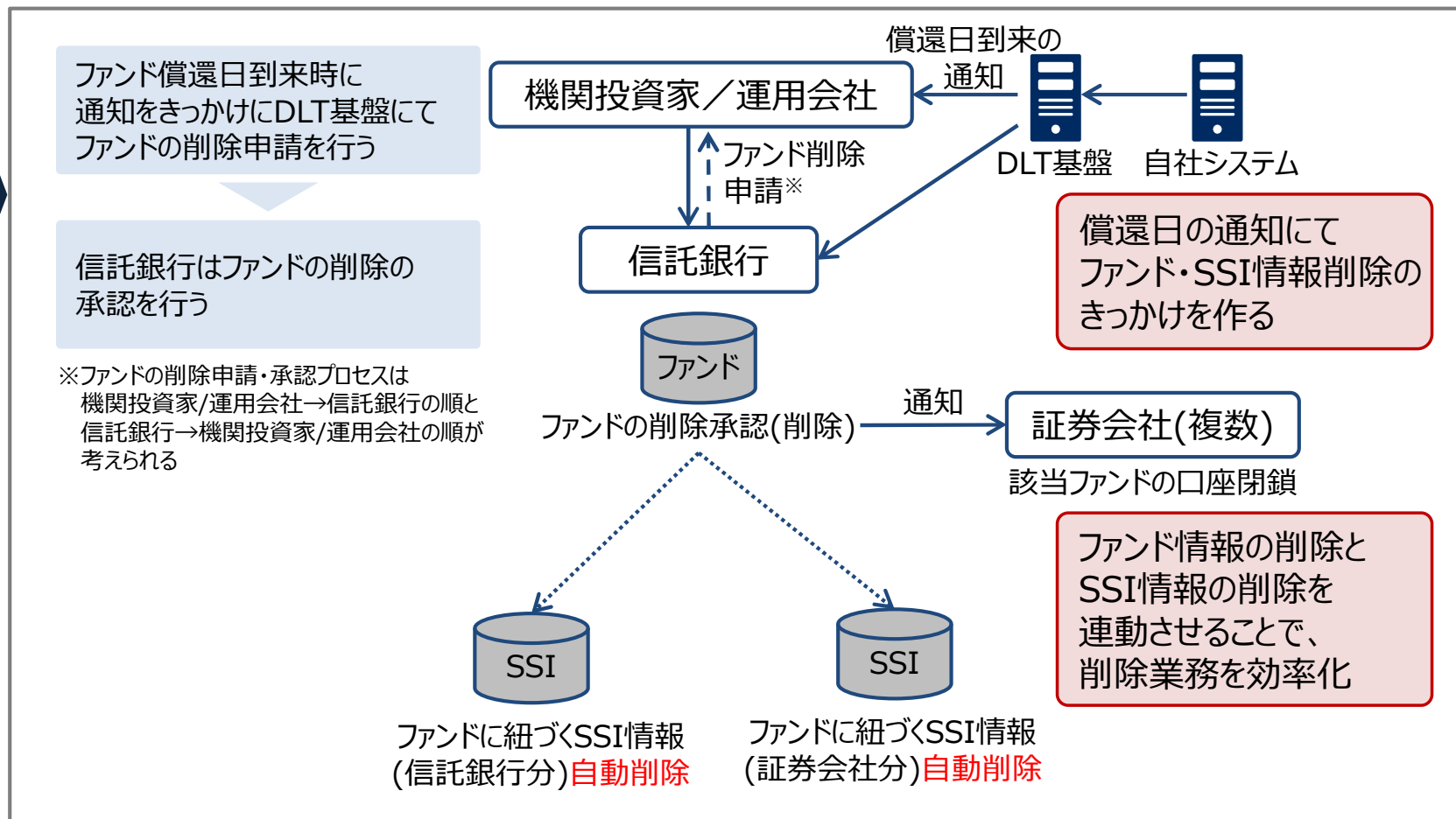
- ファンドの償還日の通知を自動化させるなどし、ファンド・SSI情報を削除するきっかけを作ると共に、ファンド情報とSSI情報の削除※を連動させることでファンド・SSI情報のメンテナンスに係る業務を効率化させる。
- 償還日は流動的であることから、各社のシステム等とDLT基盤とのデータの自動連携も想定。

※DLTにて実現する場合は特性を鑑み、データ削除ではなく「償還済み」とする等の検討が必要

### 現行のプロセス



### 将来像のプロセス（投信のケース）



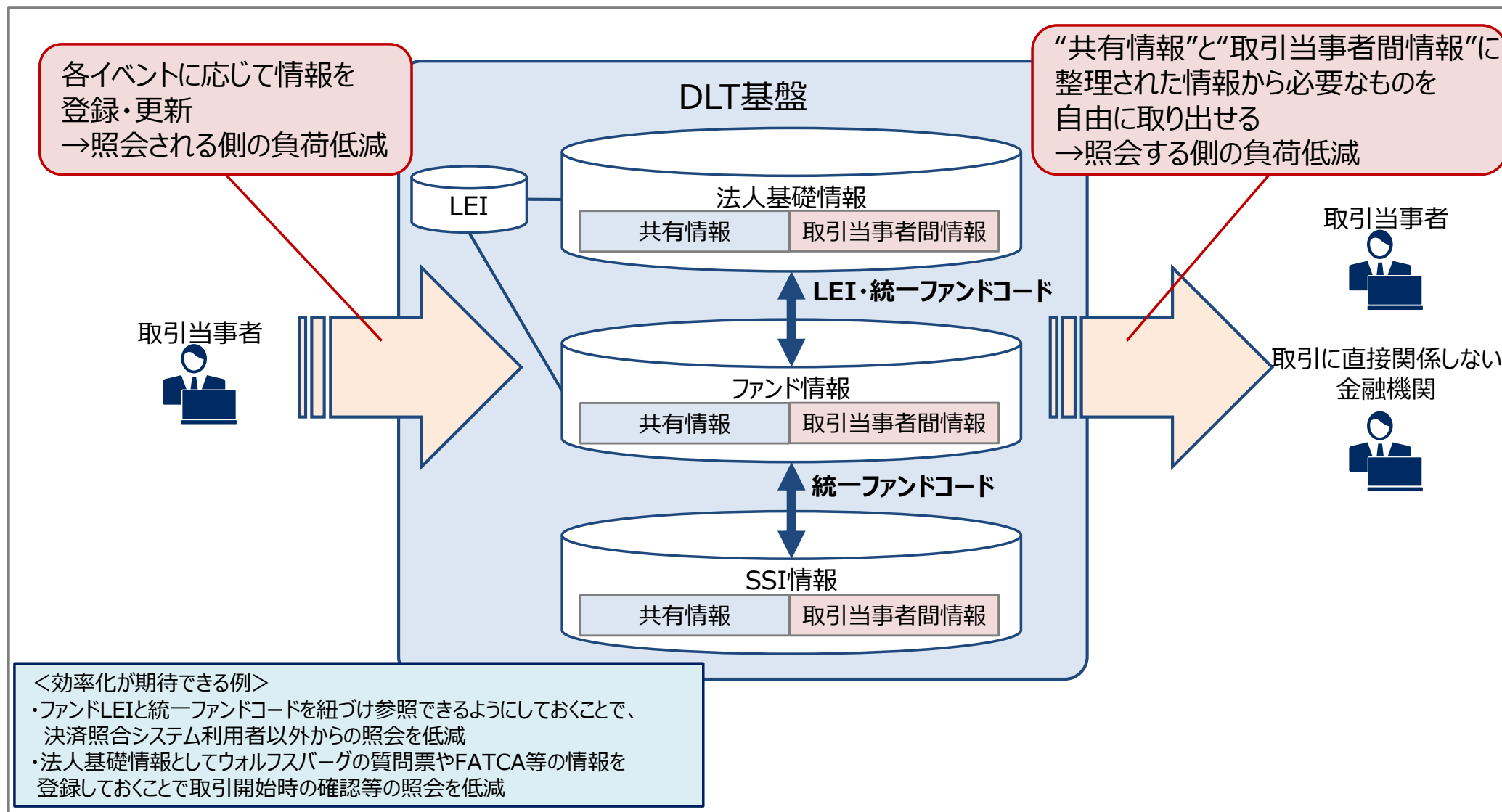


# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”の課題への対応

## －課題3 カウンターパーティ・ファンド属性の情報共有－

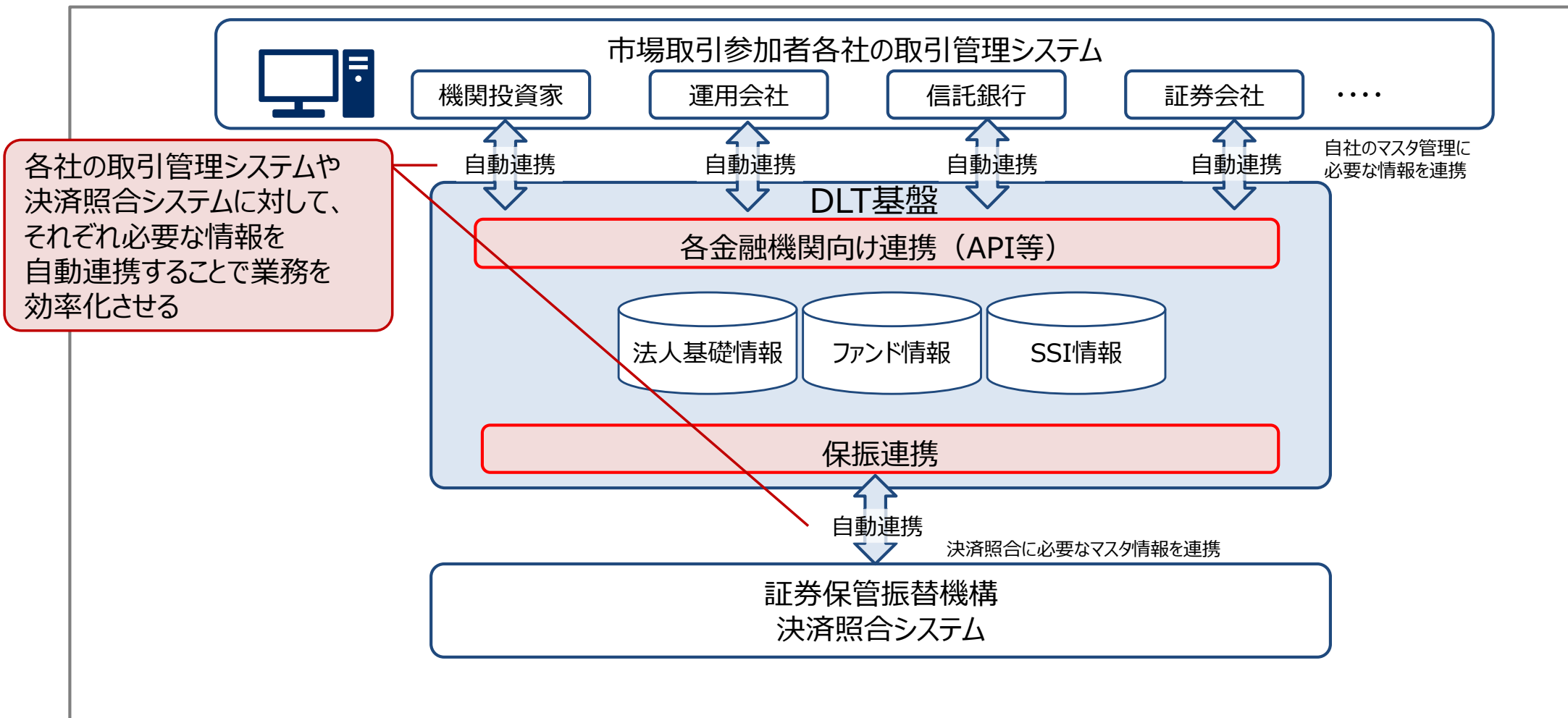
To-Be

- DLT基盤上に法人基礎情報、ファンド情報、SSI情報を集約し、LEIと統一ファンドコードで各情報を紐づけ、共有できる情報に関しては解放することで、カウンターパーティ間での照会を減らし業務効率化を図る。



－課題4 システム間の情報連携－

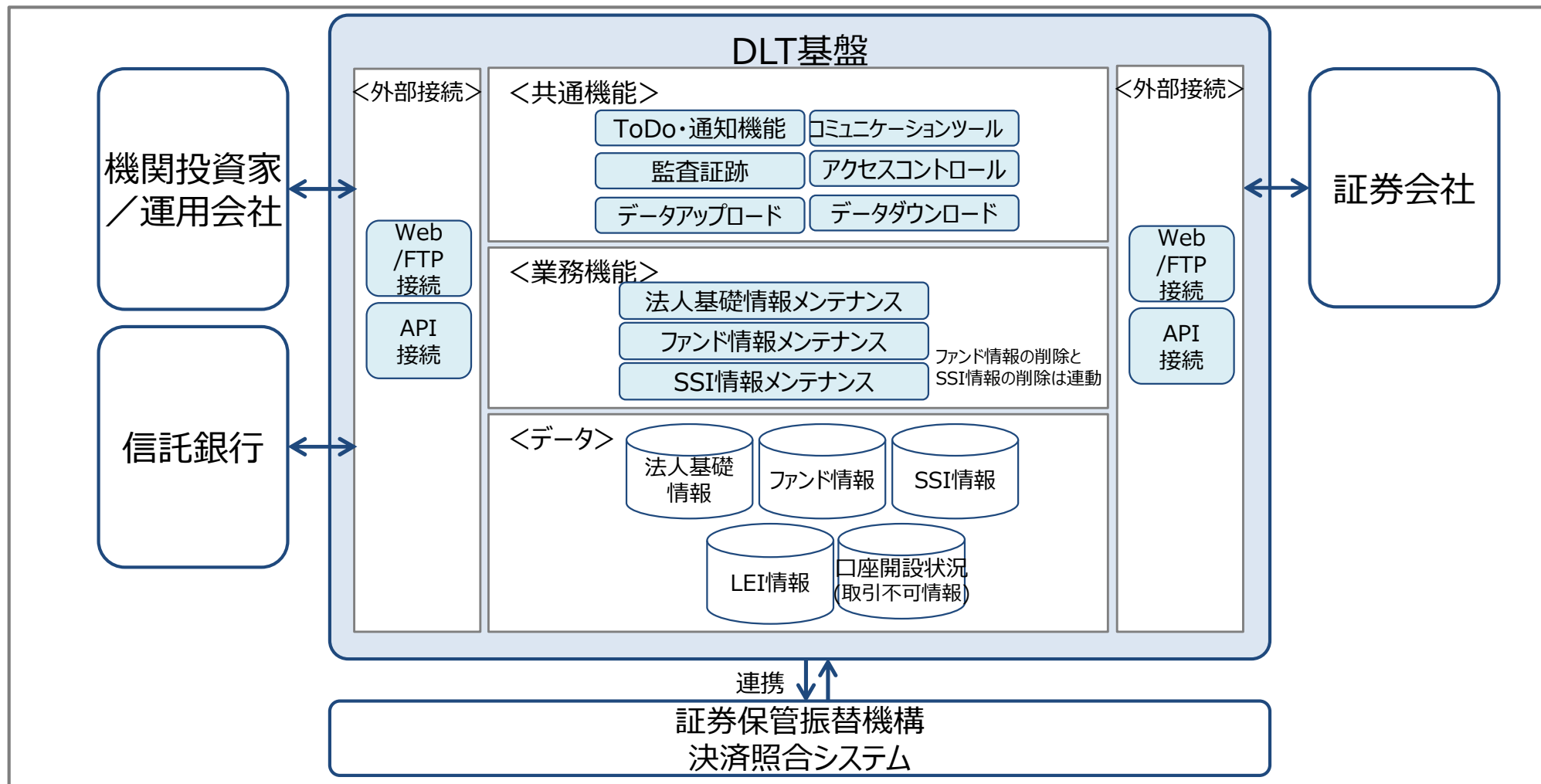
- DLT基盤と関連するシステムと必要な情報を自動的に連携できるようにすることで、業務を効率化させる。
- また、APIのような接続のための標準的な仕様を定め公開することで、柔軟なシステムの開発を可能とする。



# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”の課題への対応 DLT基盤による将来像実現イメージ

- DLT基盤にて法人基礎情報、ファンド・SSI情報を一元的に管理し、保振システムと連携させることで、業務効率化を図る。
- また、各社システムへの連携や登録完了の通知などの機能を具備しSTP化を進めることで、事務リスクの低減を図る

## ファンド・SSI・法人基礎情報の情報共有



# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”の課題への対応 将来像における業務機能

To-Be

機能分類	機能名	概要	主なユーザ
共通	コミュニケーション	取引関係者間の連絡	すべて
	通知	ステータス変更時、登録情報変更時の取引関係者への通知（通知先は事前に各機能にて設定）	すべて
	アクセスコントロール	各機能にて設定された内容に応じたアクセスコントロール	すべて
	監査証跡	アクセス履歴などの監査証跡	すべて
	ダウンロード	各種情報のダウンロード	すべて
	アップロード	各種情報のアップロード	すべて
	外部接続	保振システムや各社の自社システム、海外市場システムとの接続(API等の公開を想定)	すべて
ダッシュボード	ToDo管理	各種通知に基づくToDo管理（到着順・相手毎などのソート・フィルタリング、ToDoの潰し込みが可能）	すべて
	Information	オペレーションを必要としない参考情報の受信	すべて
法人基礎情報メンテナンス	登録・更新	金融機関自身が自社の情報を登録し参照先・通知先を決定	すべて
	削除	統廃合などにおいて不要となった場合に法人基礎情報を削除	登録主体
	管理書式変更通知	登録者宛のLEIやウォルフスバーグ質問票、FATCA W-8等のフォーマット変更通知	登録主体
	情報参照	取引関係者によるデータ参照（登録者が事前に参照先を決定）	取引関係者
ファンド情報メンテナンス	登録一時保存	バイサイドの各社間、社内での入力分担を可能とするための一時保存	バイサイド各社※1
	登録・更新	正式登録、更新、訂正（証券会社などの取引関係者の情報を含む）	バイサイド各社※1
	テンプレートコピー機能	テンプレートコピーによる自動入力機能	バイサイド各社※1
	統一ファンドコード採番	登録情報に基づく統一ファンドコードの採番	取引関係者
	各種コード紐づけ	ファンドLEIやISIN等のコードの自動紐づけ	取引関係者
	口座開設情報登録	ファンドに対応する証券口座開設情報の登録	証券会社
	参照	取引関係者によるデータ参照（登録者が事前に参照先を決定）	取引関係者
	削除申請	ファンド情報の削除申請（紐づくSSI情報の削除含む）	バイサイド各社※2
	削除承認	ファンド情報の削除承認（紐づくSSI情報の削除含む）	バイサイド各社※2
	SSI情報メンテナンス	登録・更新(信託銀行)	ファンドに紐づく信託銀行のSSI情報登録、更新、訂正（商品別に登録）
登録・更新(証券会社)		ファンドに紐づく証券会社のSSI情報登録、更新、訂正（証券会社別、商品別に登録）	証券会社
テンプレートコピー機能		テンプレートコピーによる自動入力機能	信託銀行・証券会社
参照		登録主体企業による登録データ参照	登録主体
削除		登録主体企業による登録データ削除	登録主体

※1 ファンドの種類により登録主体は異なる

※2 ファンド情報の登録主体が申請し、登録主体でないバイサイドの企業が承認（ファンドの種類により異なる）

**<法人基礎情報>**

金融機関の属性情報やAML質問票などの取引開始時や定期的なコンプライアンス関連の確認に必要な情報

**情報種類**

**概要**

法人の基本情報

**金融商品の取引を行う当事者を識別するための国際的な識別子と情報**  
  
<主な項目>  
「法人LEI」「法人の正式名称」「組織形態」「事務所の所在地」「登記番号」等  
  
※株式会社東京証券取引所(運営サイト：JPX-LEI)にて日本国内のLEI指定

コンプライアンス関連  
情報

**コンプライアンス確認等で必要となる情報**  
  
<主な情報>  
ウォルフスバーグ・グループのアンチマネーロンダリング質問票、FATCA W-8等

### <ファンド情報>

カウンターパーティに紐づくファンドの情報であり、各種システムにて管理される照合条件や、ファンドのステータス、法人基礎情報、SSI情報との紐づけ情報

情報種類	概要
ファンドを特定し 他情報と紐づけるキー情報	<b>ファンドを識別し、法人情報やSSI情報と紐づけする情報</b>  <主な項目> 「統一ファンドコード」「ファンドLEI」「個別ファンドコード(運用会社)」「個別ファンドコード(信託銀行)」「ISIN」 「投信協会のファンドコード」等
カウンターパーティ情報	<b>ファンドのカウンターパーティ情報</b>  <主な項目> 「機関投資家情報」「運用会社情報」「信託銀行情報」「証券会社情報(複数)」
ファンドの ステータス情報	<b>ファンドのステータスに関する情報</b> ファンド開設準備中(口座の開設状況、トレーディング開始不可の判断情報、ファンド情報登録未済管理)や償還日到来等のステータスを管理  <主な項目> 「ファンド償還日到来」「口座開設済/未済」「トレーディング開始可/不可」
保振決済照合システムの ファンド情報	<b>決済照合システムにて管理する照合条件等の情報</b>  <主な項目> 「ファンド名」「商品別照合条件」「ファンド開設日」「ファンド償還日」「個別ファンドコード」等

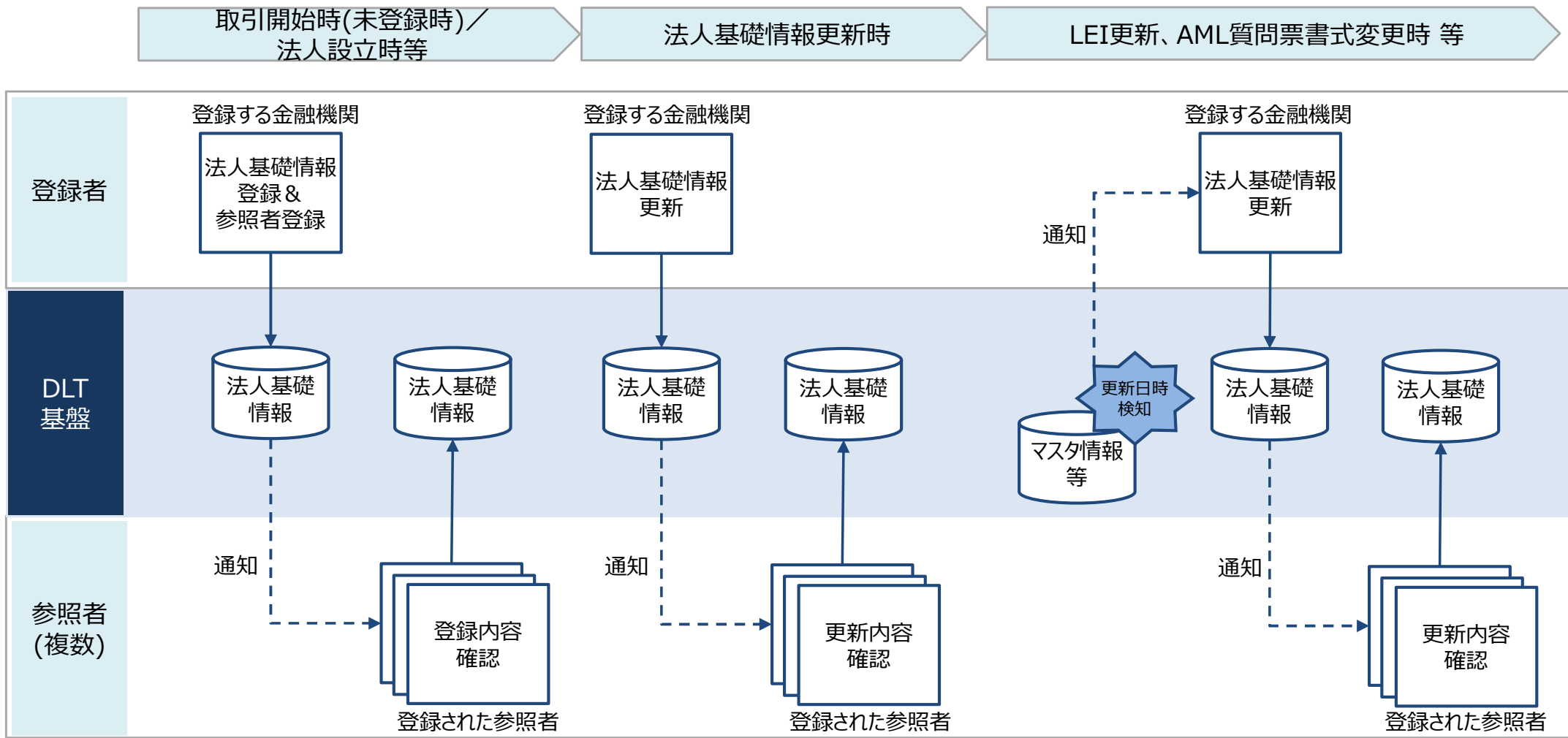
### <SSI情報>

決済照合システムで管理する証券決済、資金決済のための口座情報  
統一ファンドコードにてファンド情報と紐づけられ、商品別・取引相手別に作成される  
(証券会社が複数に跨る場合は証券会社別にSSI情報を作成)

情報種類	概要
ファンド情報と紐づける キー情報	<b>法人基礎情報、ファンド情報と紐づけるキー情報</b>  <主な項目> 「統一ファンドコード」等
SSI情報 ステータス	<b>SSI情報のステータスに関する情報</b> <b>SSI登録時や、ファンドが削除時のステータス管理を行うための情報</b>  <主な項目> 「SSI証券会社登録未済」「SSI信託銀行登録未済」「ファンド削除依頼中」「ファンド削除済」「SSI削除済」等
保振決済照合システムの SSI情報	<b>決済照合システムにて使用する証券・資金決済のための口座等の情報</b>  <主な項目> 「統一ファンドコード」「信託銀行」「証券会社」「証券決済方法」「決済場所」等

# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”の課題への対応 将来像における業務プロセス –法人基礎情報メンテナンス–

- 金融機関が登録した法人基礎情報を取引関係者は自由に参照することが可能となり、更新時には通知される。
- LEIやAML質問票の書式変更や定期見直しタイミングの登録金融機関への通知も検討する。

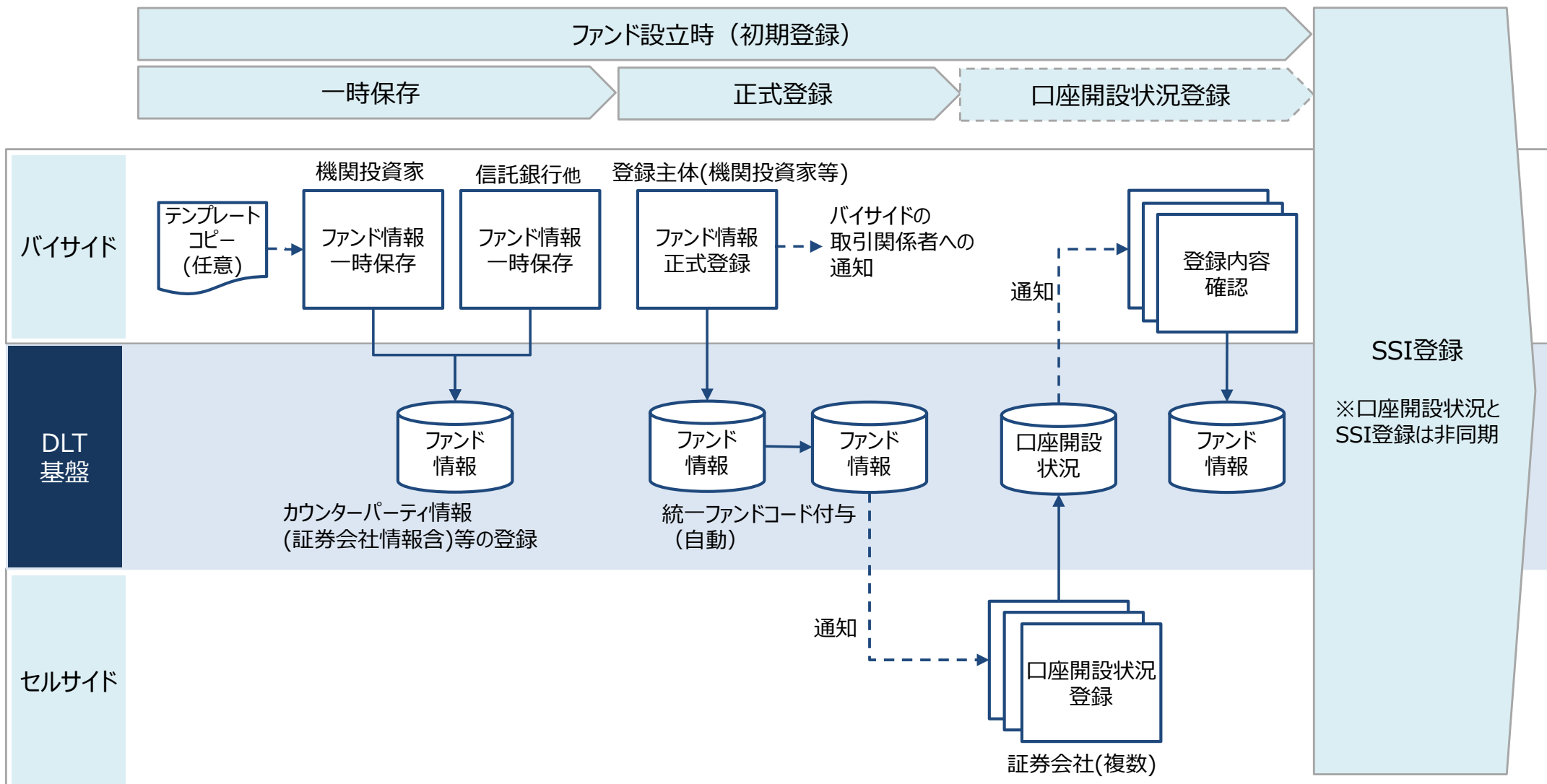




# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”の課題への対応 将来像における業務プロセス –ファンド情報登録–

To-Be

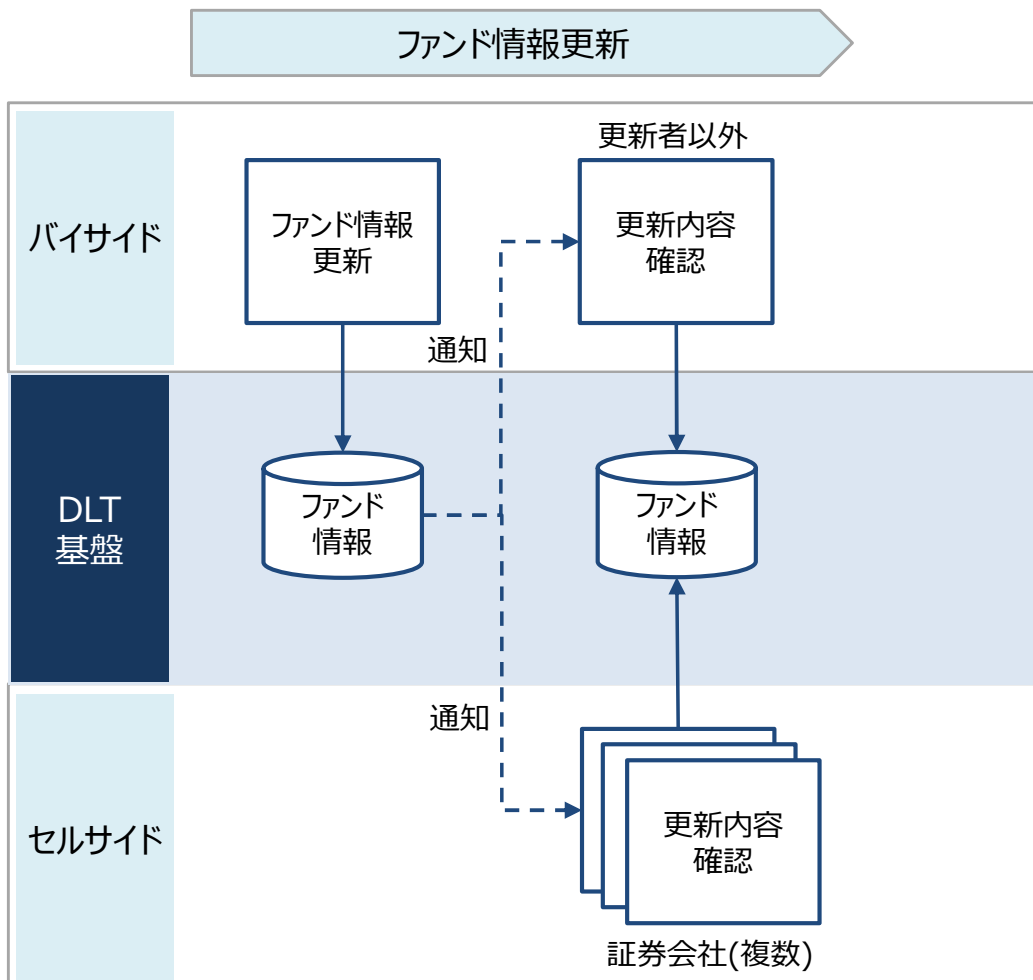
- 一時保存中はバイサイドの各社間で入力分担し、登録主体により正式登録を行うことで各社で初期登録を行う。
- 正式登録後、セルサイドに通知し情報を登録すると共に、口座開設状況も登録しDLT基盤を通じて共有する。



# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”の課題への対応 将来像における業務プロセス –ファンド情報更新–

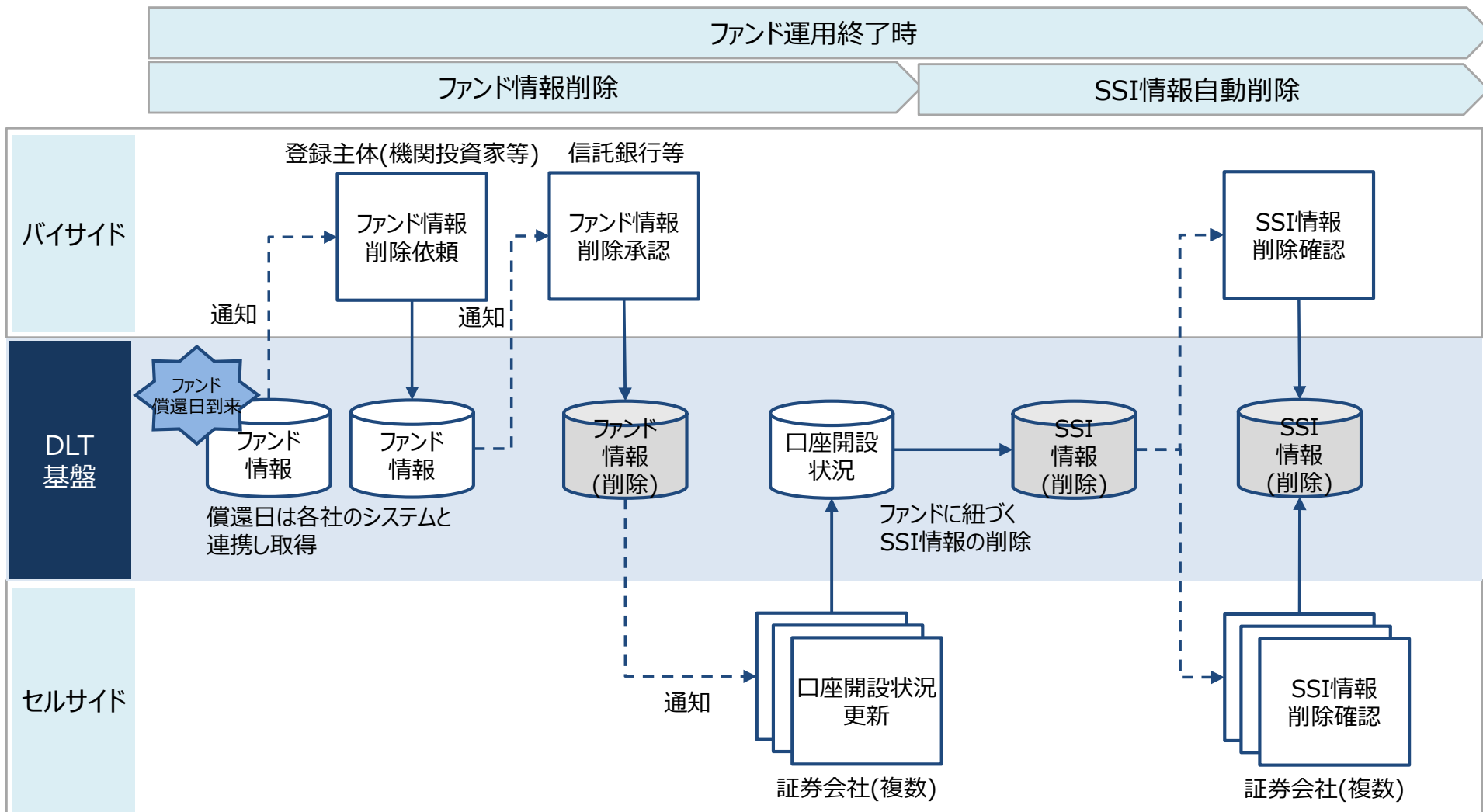
To-Be

- ファンド情報が更新された際は取引関係各社に通知される。
- DLT基盤より自動的に通知することで、取引関係者に個別に連絡する業務の負荷を低減させる。



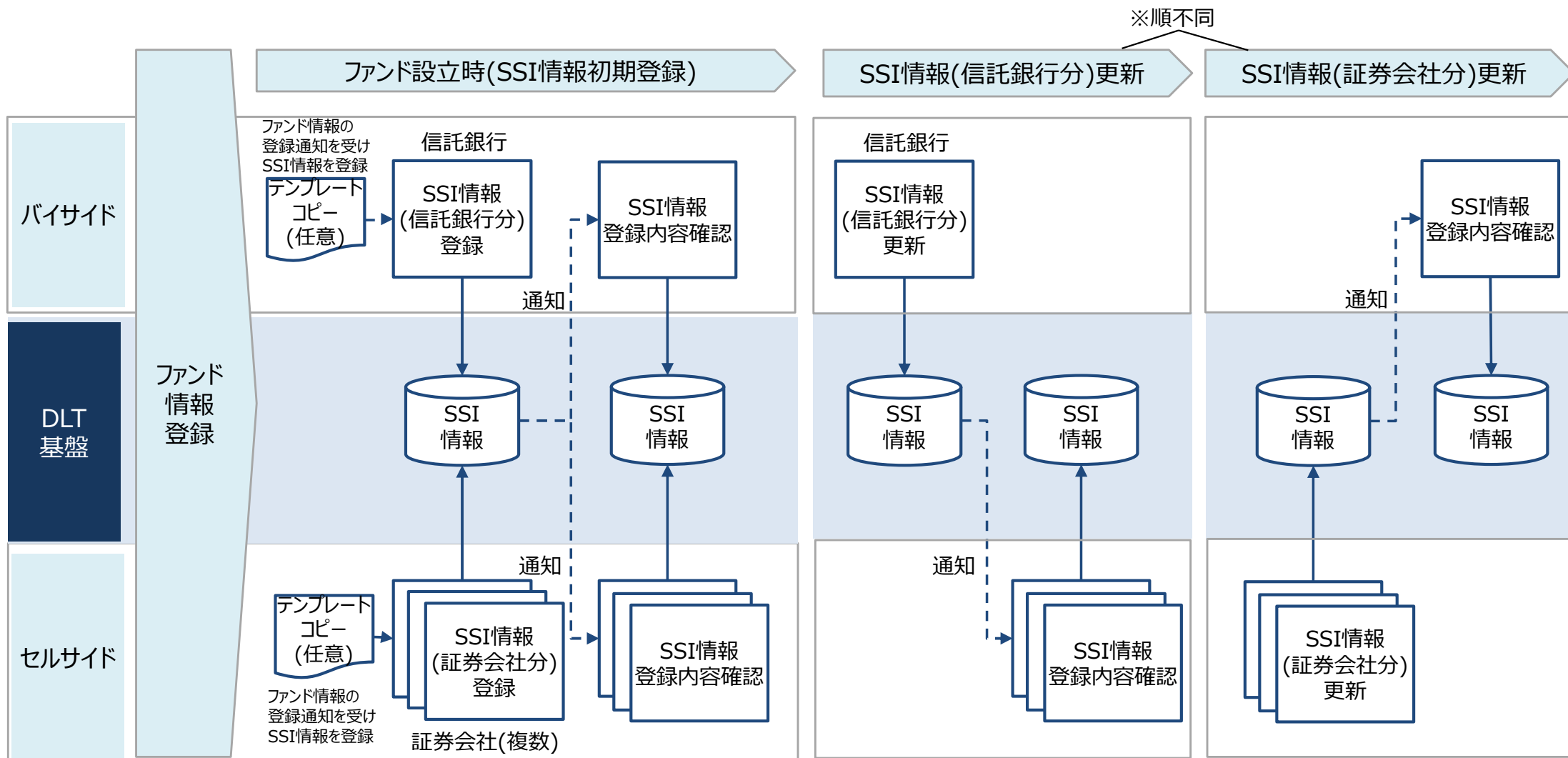
# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”の課題への対応 将来像における業務プロセス –ファンド情報削除–

- DLT基盤からファンド償還日到来の通知をきっかけに、登録主体がファンド情報の削除申請を行い、バイサイドの関係者で承認することで、SSI情報の削除まで一連の処理が自動的に行われる。
- また、償還については証券会社にも通知され、各社にて自社の証券口座閉鎖などの手続きを行う。

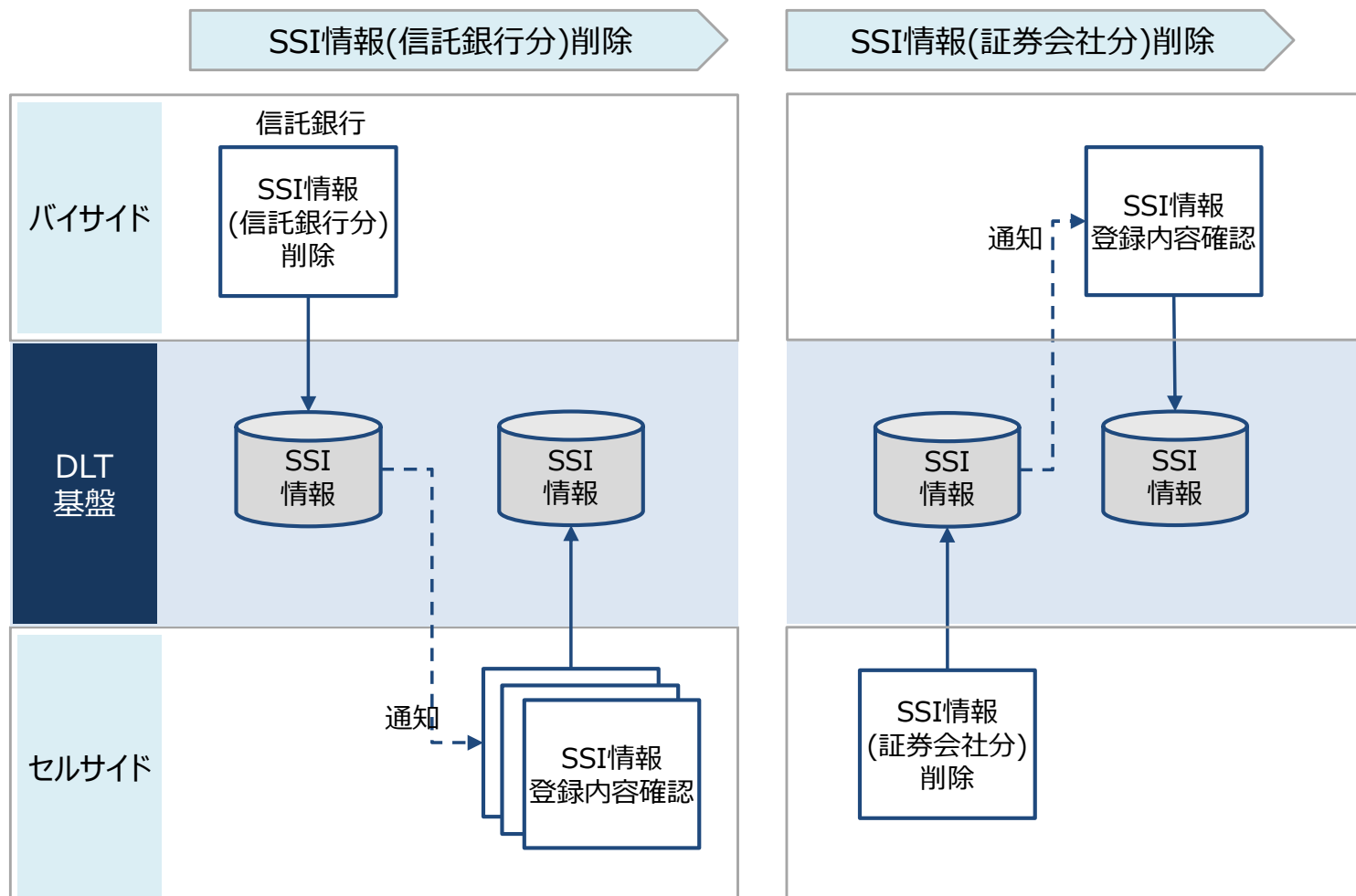


# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”の課題への対応 将来像における業務プロセス – SSI情報メンテナンス–

- ファンド情報登録後、通知を受けたバイサイド、セルサイド双方がSSI情報を登録を行う。
- ファンド・SSI情報の登録が終わり次第、相手に自動的に通知されるため登録状況が把握できる。



- ファンドが運用されている状態でSSI情報のみを削除する際は、バイサイド、セルサイドそれぞれが自社のデータについてメンテナンスを行う。

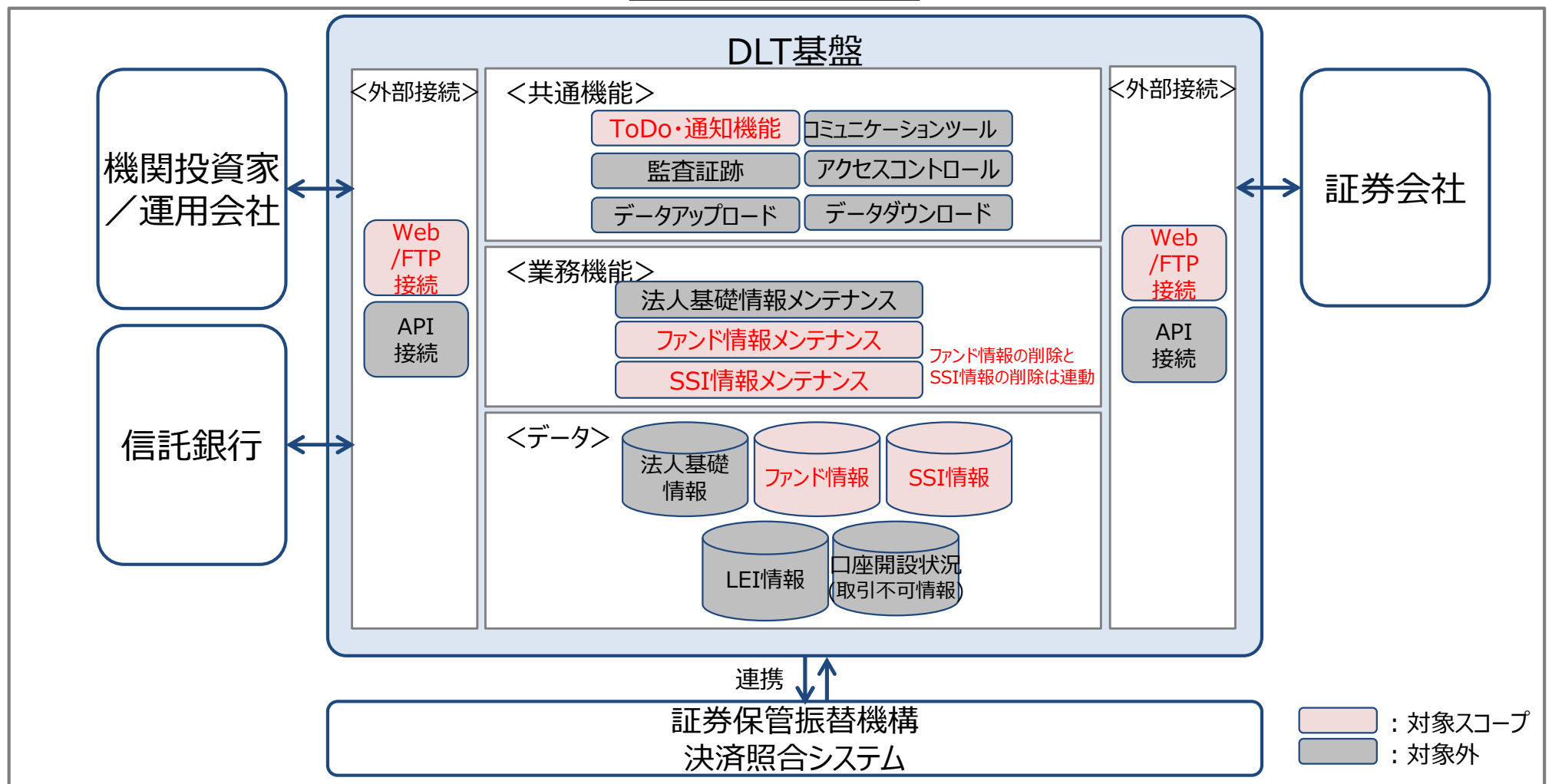


# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”の実機検証

## 実機検証の狙い・スコープ

- 実機検証においては、ファンド情報メンテナンス、SSI情報メンテナンスに業務の対象を絞って検証を行った。
- また、新たな試みとして、ToDo・通知管理やファンド・SSI情報の削除連動の機能面についても検証した。

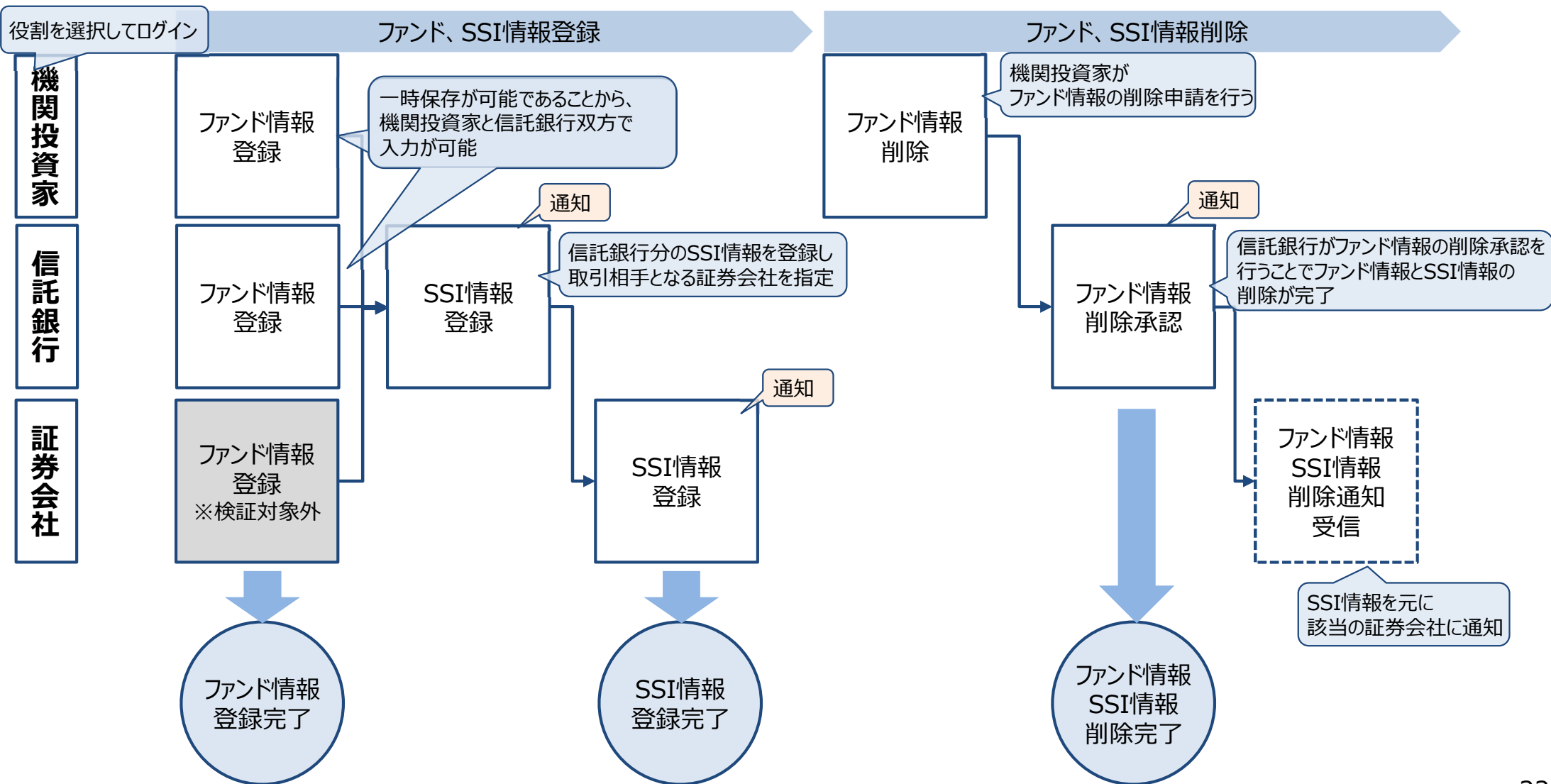
### 実機検証のスコープ



# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”の実機検証

## 実機検証の概要

- 機関投資家/信託銀行がファンド情報を登録し、その後、信託銀行・証券会社でSSI情報を登録、ファンドの削除の流れで検証を行った。
- また、登録等のステータス変更時に自動配信される通知やToDo管理、ファンド・SSI情報の削除の連動についても検証した。



# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”の実機検証

## 実機検証の概要 -画面構成-



ファンド・SSI情報管理  
ダッシュボード



ファンド情報登録

- 新規ファンド登録



ファンド情報  
照会・一覧

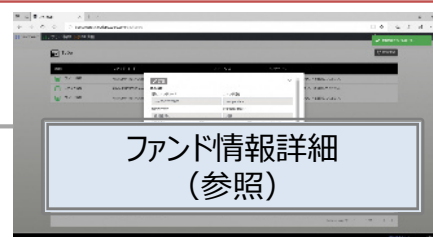
- ファンドコード等でファンドを照会し一覧にて表示
- 参照、訂正、削除対象を選択



SSI情報  
照会・一覧

- ファンドコード等でファンドを照会し一覧にて表示
- 参照、訂正、削除、対象を選択
- 登録承認、削除承認

→ 情報登録されている  
関係者に情報変更を通知  
統一ファンドコードを採番



ファンド情報詳細  
(参照)

- ファンド情報詳細の表示(表示のみ)



ファンド情報詳細  
(削除)

- ファンド情報詳細の表示
- 削除登録、削除承認

→ 申請→承認の  
フローにて削除  
(SSI情報も削除)



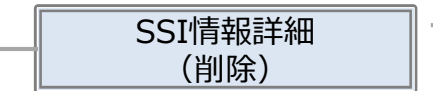
SSI情報登録

- 新規SSI情報登録



SSI情報詳細  
(参照)

- SSI情報詳細の表示(表示のみ)




SSI情報詳細  
(削除)

- SSI情報詳細の表示
- 削除登録、削除承認

→ 申請→承認の  
フローにて削除

ファンド情報・SSI情報の訂正機能  
およびアップロード・ダウンロード機能については  
検証環境構築の都合上、対象外とする

 : 検証対象画面



# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”の実機検証

## 実機検証の概要 -画面イメージ（ダッシュボード画面）-

- ファンド・SSI情報のメンテナンスにおいて必要な対応等の情報をダッシュボードに集約して表示。
- 情報の登録依頼や削除承認依頼等、次アクションを必要とする通知を受信した際は、ToDoリストにて次アクションを表示し、タスクのの潰しこみを可能とする。
- アクションを伴わないような、登録完了通知等の通知に関してはInformationリストにて表示される。

### ファンド・SSI情報管理 ダッシュボード

The screenshot shows a web application interface for managing fund and SSI information. It features two main data tables. The top table, titled 'ToDo', lists tasks that require attention, such as pending deletions or registrations. The bottom table, titled 'Information', displays completed actions and provides reference information for transactions.

#### <ToDo>

自社にて対応が必要な事項がToDoとして表示され、クリックすることタスクの実行をするための画面に遷移。  
例：ファンド償還日到来、ファンド削除承認 etc..

#### <Information>

自社の取引に関する参考情報が表示される。  
例：取引相手のSSI情報登録完了 etc..

# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”の実機検証

## 実機検証の概要 -画面イメージ（ファンド情報の削除画面）-

- ファンド情報削除において必要な申請・承認・通知の業務プロセスは、ダッシュボードを通じて取引関係者に連携される。また、ファンド情報の削除とファンドに紐づくSSI情報の削除は連動して行われる。

削除申請者※

削除承認者※

※実機検証においては、削除申請は機関投資家、削除承認者は信託銀行として検証を実施

ファンド情報詳細  
(削除申請画面)

ダッシュボード

削除承認者のToDoリストに  
削除承認依頼が表示され、  
選択することで削除承認画面に遷移

ファンドを選択し削除を申請

ファンド情報詳細  
(削除承認画面)

削除が承認されると、ファンドと紐づく  
SSI情報が削除され、削除申請者・  
証券会社に自動的に通知される

削除申請者※

ダッシュボード

証券会社

ダッシュボード

ファンド削除承認しますか？

いいえ はい

ファンド情報  
削除依頼

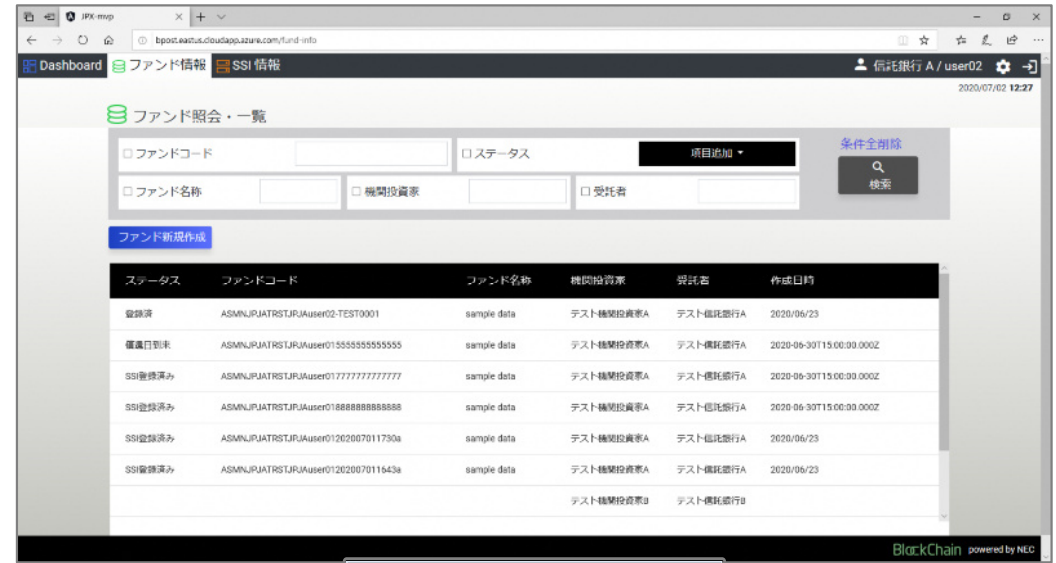
ファンド情報削除承認 &  
ファンド・SSI情報削除

ファンド・SSI情報削除 通知

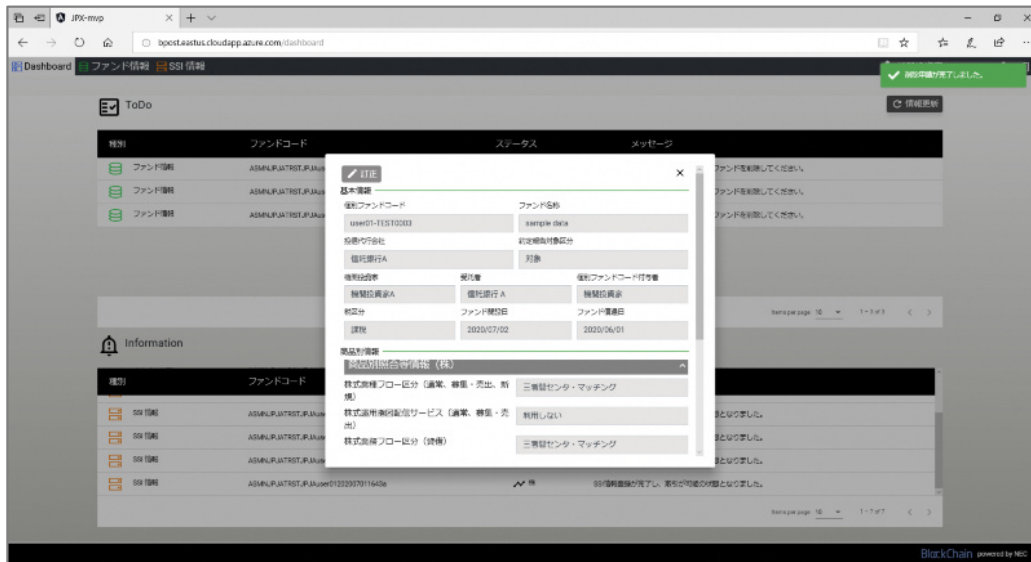
# [参考]実機検証における画面イメージ(1/2)



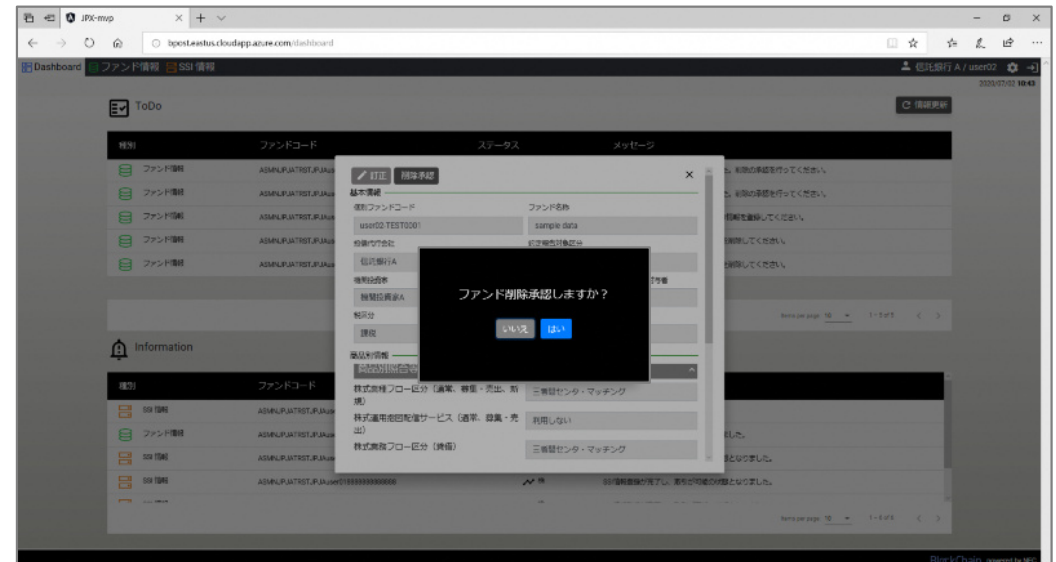
ファンド情報登録



ファンド情報照会・一覧

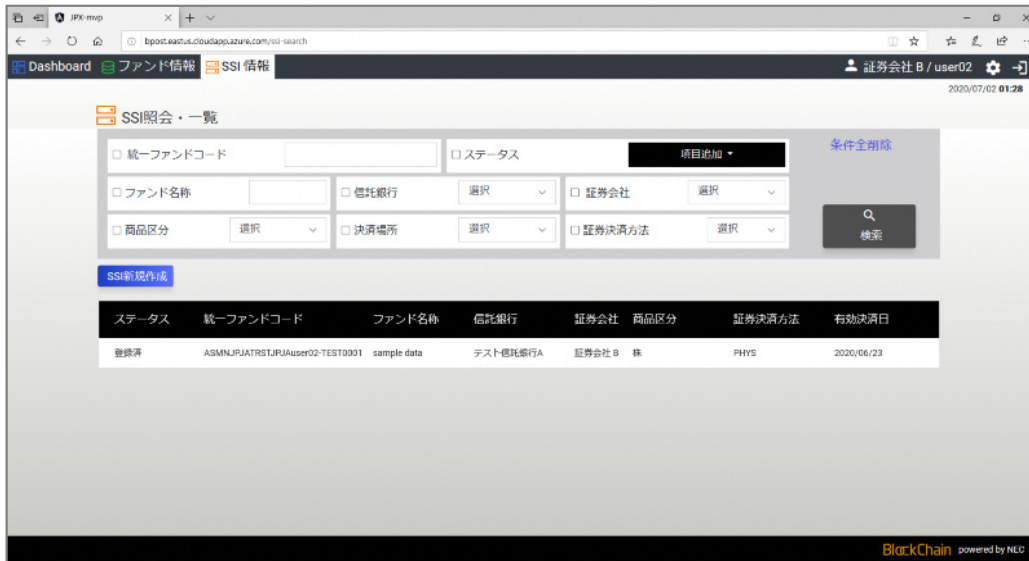


ファンド情報詳細 (参照)



ファンド情報詳細 (削除承認)

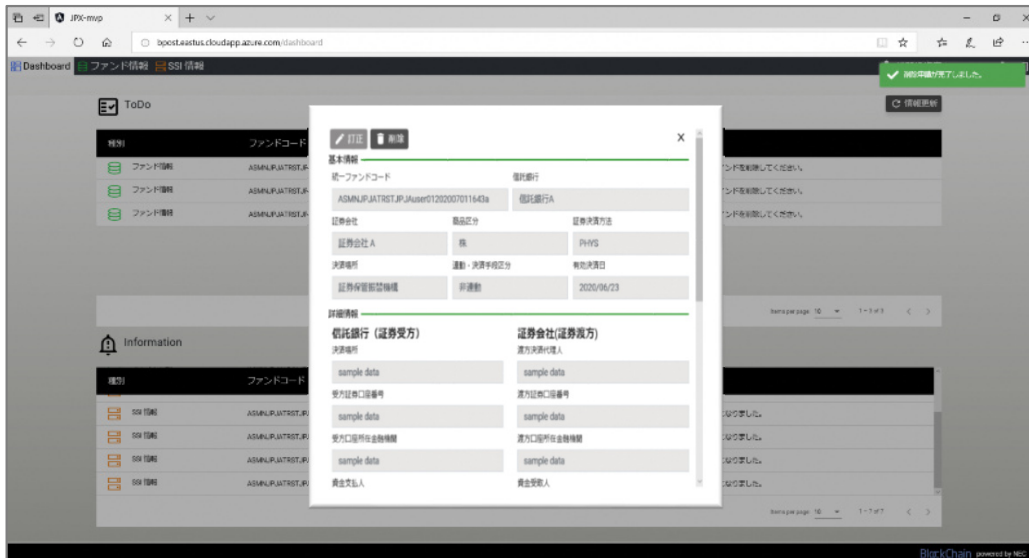
# [参考]実機検証における画面イメージ(2/2)



SSI情報  
照会・一覧



SSI情報登録



SSI情報詳細  
(参照)

# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”のアンケート結果の要約 実機検証における評価

- 本プロジェクトで新たな試みとして検証したテーマ・機能について、運用会社・信託銀行・証券会社・銀行・ITサービスプロバイダーの参加者によるアンケートを実施した。
- 次頁以降にて記載の通り、検討すべき事項はあるものの、業務改善の可能性があることが確認された。

実機検証での  
新たな試み

価値を感じられた点（アンケート結果の一部）

ダッシュボード・  
ToDo通知管理

- ✓ 3者間で個別に連絡し煩雑となっていた作業がかなり簡素化され、かつスピーディに完結することが期待できる
- ✓ ファンド管理を一元化でき、3者ともに必要な情報を必要な時に簡単に入手できる
- ✓ 誰でも一度オペレーションすれば習得できる簡単さはメリット  
また基本、ToDoのみの課題を取り組めば、現在溜まっているタスクを消化できるという簡潔さもメリット
- ✓ 処理状況、次の処理が必要なファンドについて1画面で見ることができる
- ✓ ダッシュボードから金融機関間でステータス確認等の情報共有ができる
- ✓ SSI情報の登録機能について、今までのメールでやりとりと比較して、無駄がなくミスマッチも起こりにくい
- ✓ 各社の社内システムとAPI接続を行うことで各社の社内業務についても業務効率を大きく改善できる可能性がある

ファンド・SSI情報  
自動削除  
(連動した削除)

- ✓ ファンド削除時に、SSI情報が連携削除されることにより、不要なSSI情報が残らなくなる
- ✓ ファンド・SSIの登録と同様に、削除依頼のメールでやり取りしているため、削除・償還日の情報がDLTで共有されていると、将来的には社内システムとの情報連携を自動化できる可能性がある  
情報の操作が一元化されることにより、各社の業務コスト削減の可能性が高まる
- ✓ 償還ファンド情報は証券会社まで届かないことが多く、タイムリーにファンドのクリーニングが可能となる
- ✓ 償還情報がワンクリックで、通知すべき相手に届く
- ✓ 証券会社でのSSI削除作業がなくなる

※参加企業によるアンケート結果を基に事務局にて表現等を見直し再整理したもの

上記の他、本取り組みに対して、“証券会社、機関投資家、信託銀行、運用会社など各社それぞれで実施していることにより負荷が高い、非効率、高コストな業務を、こういった共通の基盤を作り解決しようという方向性は、今後の業界にとって必須であり、JPXや保振が中心となって業界全体の課題改善の取り組みは推し進めていただきたい”、とのコメントもあった

# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”のアンケート結果の要約

## 将来像における検討事項 – ファンド情報登録・訂正 –

- ファンド情報の登録・訂正においては、会社間・社内間での登録を可能とする仕組みや登録の負荷を低減させるための仕組み等の機能追加・改善事項のアイデアがあがった。

大分類	小分類	課題・要望
機能改善	ファンド情報登録・訂正	機関投資家が証券会社を選択する実務フローとあわせて、機関投資家が証券会社を選ぶ機能の追加(1ファンド当たり20社程度となるため、一画面で複数社選択できる仕様が望ましい)
		一時保存機能及び、ダブルチェックのための承認機能の追加 (複数部門での対応)
		次の工程に進む際、次の担当者に自動メールで通知される機能の追加 (ファンド情報登録完了→信託銀行へ、信託銀行がファンド情報・SSI登録完了→証券会社へ)
		運用開始後、証券会社を追加する場合があるため、例えば「日本株で運用するすべてのファンドに〇〇証券を追加」を可能とする機能を追加
		削除済ファンド情報でも訂正ボタンを押すと画面上は編集可能だが、本番では訂正不可能とすべき
		償還日は必須項目としない (ファンド新規設定時には償還日は決まっているケースは少ない)
		オープンエンドのファンドの償還日設定の方法が分かりづらいため、ヘルプページを用意するか自由入力以外の方法の検討が必要
		機関投資家、信託銀行の選択がプルダウンになっているが、本番では数百社となるため工夫が必要
		現在ファンド番号を発番しているのは信託銀行のため、難しいと思われる、今現在機関投資家がファンド・SSI情報登録のフローに関わらないため、どこまで対応してくれるのが課題
		Excel のFiltering Function のようにものがあれば使い勝手の向上が望める
		「削除済データと登録済データ」が開くと一見して同じに見えるため、色を変えるかページを変える等して削除の旨を区別しやすくしたほうがよい
		検索のステータスのフィルタにある「信託銀行登録済」と「信託銀行登録済み（証券会社未入力）」を検索結果のコラムにも足した方がステータスを即座に把握しやすい
		機関投資家がファンド登録する際に信託銀行と証券会社(複数)を指定し、統一ファンドコード採番と共に、信託銀行と証券会社に通知される機能の追加
		証券会社の口座開設状況がわかりやすく閲覧できる機能の追加
		登録情報の初期設定のパターンを企業ごと（またはユーザごと）に複数設定して、その設定を再利用できると効率化がより進む
同一条件で複数条件を入力できるなど、検索機能の充実		
ファンド作成の際キャンセルができない(現状、ブラウザで戻るしかない)		

※参加企業によるアンケート結果を基に事務局にて表現等を見直し再整理したもの

# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”のアンケート結果の要約

## 将来像における検討事項 – SSI情報登録・訂正、ファンド・SSI情報削除 –

- SSI情報登録・訂正機能に対してはファンド登録と同様に入力を簡素化するような仕組みのアイデアがあり、ファンド・SSI情報削除については申請の取り消しや証券会社へのメール通知等のアイデアがあがった。

大分類	小分類	課題・要望
機能改善	SSI情報登録・訂正	SSIに変更があった場合、関係者に通知が届く仕組みの追加
		Excel のFiltering Function のようにものがあれば使い勝手の向上が望める
		「削除済データと登録済データ」が開くと一見して同じに見えるので、色を変えるかページを変える等して削除の旨を区別しやすくしたほうがよい
		削除したSSI情報が使いまわせる機能の追加
		検索のステータスのフィルタにある「信託銀行登録済」と「信託銀行登録済み（証券会社未入力）」を検索結果のコラムにも足した方がステータスを即座に把握しやすい
		登録情報の初期設定のパターンを企業ごと（またはユーザごと）に複数設定して、その設定を再利用できると効率化がより進む
		同一条件で複数条件を入力できるなど、検索機能の充実
	ファンド・SSI情報削除 (ファンド償還管理)	ファンドの削除という建てつけよりも償還フラグを付与するほうが法律上もブロックチェーンの特性上も望ましいと思われ、削除して検索できなくなるよりも償還ファンドが表示された方が管理もしやすい
		誤操作などにより削除申請されたデータの取り消し機能の追加
		機関投資家内での承認機能を追加
		証券会社としては、自社に関わるファンドが削除された際に、何らかのお知らせメールが届くようになると、画面をモニターしに行かずに自社システムでの作業が開始でき、より業務が効率化されると思われる
		信託銀行の削除申請機能の追加
		画面からの複数ファンドの削除機能の追加
		複数ファンド削除のアップロード機能の追加
		「登録ボタン」「一時保存ボタン」のボタン名称統一
		ファンド償還・ファンド休業を受けて、ファンドシステムで一斉に注文を受けられなくするなど、一斉中央制御（販売会社の手間を省くことができる）

※参加企業によるアンケート結果を基に事務局にて表現等を見直し再整理したもの

# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”のアンケート結果の要約

## 将来像における検討事項 – ダッシュボード・ToDo管理・ワークフロー –

- ダッシュボード・ToDo管理・ワークフローについては、表示をわかりやすくすることやメールやブラウザへの通知機能等についてのアイデアがあがった。

大分類	小分類	課題・要望
機能改善	ダッシュボード・ToDo管理 ・ワークフロー	DashBoardのInformationの表示をもう少し分かり易く表示すると共に、actionが取られた日付と時刻を表示した方がどれが最新の情報なのかわかりやすくなる
		ExcelのFiltering Functionのようにものがあれば使い勝手の向上が望める
		信託銀行、証券会社からファンドSSI情報登録完了の連絡をメール等で受け、登録状況を表示する機能の追加 (15/20社登録済み、等)
		ファンド設定日前日までに未登録な場合、リマインダーで自動通知される機能の追加
		メール通知やブラウザへのPush型の通知など複数種類の通知機能の追加
		InformationやToDoに新しい情報が追加された時はシステムからメールする機能の追加
		ダッシュボードに通知されるだけでなくメールまたは自社システムへのデータ連携等で通知する機能の追加
		ToDo通知機能をメールで担当者に送信する機能の追加
		自動承認機能の追加 (マニュアル承認不要で、自動承認機能をオンにしていればすべての承認が自動的に行われる)
		複数承認機能の追加 (承認側で、ユーザーAが承認後、ユーザーBによる承認をもって、承認完了とする)
		登録情報の初期設定のパターンを企業ごと（またはユーザごと）に複数設定して、その設定を再利用できると効率化がより進む
		いつ誰が更新したのかわかるように表示（更新日時等の情報を表示）
		登録プロセスにおいて誰がどこでボールを持っている状態かをわかりやすく表示
		ToDoについて、メール等でリマインドする機能の追加
		ファンド毎の表示のため、ファンドの量が多いとTODOリストが多すぎて見づらい ファンド毎に1行ではなくステータス毎の件数表示等にして、件数をクリックすると詳細表示する構成が望ましい 処理が必要な件数や必要な情報を絞って検索・表示できる機能があるとよい

※参加企業によるアンケート結果を基に事務局にて表現等を見直し再整理したもの



# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”のアンケート結果の要約

## 将来像における検討事項 – 検証環境固有・検証方法 –

- 実機検証固有の課題・検証方法については、レスポンスタイムや一部動作不良に関するもの、検証期間の制約や追加検証実施の要望等があげられた。

大分類	小分類	課題・要望
検証環境固有	レスポンスタイム	レスポンス（システム待ち時間）があると感じた
	動作不良	日を跨ぐ償還日到来自動削除が動作確認できなかった （ファンド開設日と償還日が同日の場合は確認可能）
		ファンドコード検索機能において条件全削除ボタンが効かない
		ファンド登録の際、コードをコピーするボタンを押下した後画面スクロールが効かなくなる
検証方法	検証期間	検証の期間は、通常業務後や週末にも自由に検証できることが望ましい
	追加検証	このユースケースで挙げた改善点を検証環境に反映し、検証のPhase2を行い、より実用化へつながるようにしたい

※参加企業によるアンケート結果を基に事務局にて表現等を見直し再整理したもの

# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”のアンケート結果の要約

## 将来像における検討事項 – 共通機能 –

- 実機検証においては実装していない機能の将来像におけるアイデアとして、保振システムや自社システムとの連携、ダウンロードや監査証跡・アクセス権限管理などがあげられた。

大分類	小分類	課題・要望
共通機能	システム連携	保振システムへの連携 (ほぶりの決済照合システムに登録している情報と同一であるため、二重打鍵回避)
		保振決済照合システムへの連携
		保振システムへの双方向の自動連携、データベースのリアルタイム同期 (統合Webメンテナンス画面の廃止要否の検討含む)
		自社システムとの間でスムーズなデータ連携 (ファンド情報やSSI情報は自社システムで管理・メンテナンスすることを想定)
		既に同サービスを提供しているベンダー (DTCCのALERT機能) との協働の可能性
		APIの公開 (既存システムとの接続などの評価)
		各証券会社のシステムからのアクセス(API等の開放)
	ダウンロード	各画面へのダウンロード機能の具備 (社内での管理上、Excel で確認することが非常に有用)
		Excel かCSV でDownload できたら大量に処理する際には便利
	監査証跡管理	中央にシステムが寄るように記載されているが、各社内の監査のために情報アクセスに対しての証跡保存とその証跡へのアクセス方法などを検討が必要
	アクセス権限管理	各種情報へのアクセス権限の設定や更新可能なフィールドの特定等について今後検証が必要
	DLT技術活用の可視化	検証システムの裏でDLTの技術がどのように生かされているのかの可視化
	DLTノード保有の整理	一部のユーザはDLTの独自ノードを保有することを想定していた。マスタ情報管理システムとして将来どういった構成にするか(DLTが適しているのかを含めて)検討する必要がある

※参加企業によるアンケート結果を基に事務局にて表現等を見直し再整理したもの

# “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”のアンケート結果の要約

## 将来像における検討事項 – スコープ・本番導入の検討事項 –

- 将来像におけるスコープ及び、本番導入における検討事項として、対象商品や業務プロセス、運用の前提など、様々なアイデアがあがった。

大分類	小分類	課題・要望
スコープ	対象商品	外国株式、外債等海外資産への展開
	対象業務プロセス	ファンドの組成～償還までのどこからどこまでを取り込むのかの整理(場合によっては、関係者増(原信託行等))
本番導入の検討事項	並行運用	今回のシステムは現状の完成度が高く本番稼動に耐えるものだと感じており、できるだけ早く本番稼動して従来のやり方と並行運用する形をとると参加者にとってメリットがあるのではないかとと思われる
	運用の統一化	業界全体で当該プラットフォーム参加への義務化等ある程度強制力を伴わない限り、複数の業務プロセスが併存
	メール廃止可否	完全にメールが無くなっても良いか意見を聞いた方が良い (更新後の情報はメール配信してほしいなどの意見が出るのが想像される)
	決済照合システム リプレース	技術的にはDLT基盤がほぶりの決済照合システムに置き換わることも可能、情報共有基盤としてだけでなく、広い範囲の機能をカバーできるとよい
	検討の順序	フロント・ミドルまでを含めた将来像は中長期的課題として、今回の業務検証においては、バック業務の将来像までとした方が良い
	バイサイドの業務プロセス	機関投資家・運用会社・信託銀行はバイサイド側、証券会社セルサイド側という関係において、バイサイドからの必要情報をバイサイド側の誰が出す(登録すべき)情報なのかの整理
	フロント・ミドルの 統一的な業務フロー	フロント業務・ミドル業務は統一的な業務フローが無いと考えており、各社のフロー統一もしくは臨機応変なシステムが必要 (バックは決済照合システムの統一的なフローがある)
	業務定着	償還を迎えたものについて、起点会社から削除作業をしない限り存置されるため、実用化の面では実際に定着するまで期間要すると思料
	情報メンテナンスの役割	機関投資家で全ての証券会社に対してファンドを作成しないといけなくなると、バイサイド側の業務が煩雑になり、ファンドを削除するのが漏れたりしないか懸念がある
	DLTの活かし方の整理	DLTを使うことのメリットが不明、そのため、DLTを使うこと、DLTサーバの管理を各社で実施することによる業務的なメリットに加えて、コストなどシステム面でのメリットなどを整理したうえで、実用化の方式を検討する必要がある

※参加企業によるアンケート結果を基に事務局にて表現等を見直し再整理したもの

## “ファンド・SSI・法人基礎情報の共有”まとめ

### 現行の課題

- ✓ ファンドの設立や償還は恒常的に発生する業務であり、運用会社・信託銀行・証券会社などの多くの取引関係者と連携しながら進める必要がある。
- ✓ ファンドの設立時・取引開始時におけるAML/CFT・FATCAの確認などの業務も増えており、取引関係者で連携すべき情報は増加する傾向にある。
- ✓ これらのファンドや取引関係者で共有する情報を一元的に管理し連携する包括的な枠組みはないため、個別にメールや電話で連携を行った上で、自社システムや保振決済照合システム等に入力しており、非効率であるとともに事務リスクもある。

### 将来像の考え方と実現における検討事項

- ✓ ファンドや取引関係者に関する情報を集約し関係者で円滑に連携できる基盤を構築し、それをハブとした取引関係者間の情報連携が進めば、ファンド情報のメンテナンス等の業務の効率化や事務リスク低減が期待できる。
- ✓ このような基盤の構築にあたっては、ファンド・SSI情報のメンテナンスのような現行の業務プロセスの改善として着実に進めるべきテーマと、法人基礎情報の共有やフロント・ミドル・バック間の情報連携のように、新しい枠組みを検討すべきテーマがあり、それぞれに適した対応の検討が必要となる。
- ✓ なお、このような基盤が有効に利用されるためには、情報が標準化された上で集約され、かつ、大きな負担なくメンテナンスできるような仕組みとする等の考慮も必要となる。